

地域子育て支援拠点の日常についての一研究

ーテキストマイニングを用いた日誌の分析ー

○春日由美¹⁾・井天満誠也²⁾・井藤井智佳子³⁾・小野史典¹⁾

(¹⁾ 山口大学教育学部・²⁾ 山口大学大学院創成科学研究科・³⁾ NPO 法人あっと)

研究の目的

1990年代から現在まで、全国で数多くの地域で子育て活動が行われ、R3年には地域子育て支援拠点事業の実施場所は7,856に上る。拠点事業の実施場所は、保育所や公民館、児童館や専用施設等様々で、運営主体も直営、NPO法人、社会福祉法人等、多様である。また利用者も様々であることが特徴と言える。現在活動が20年を超えるものも見られるようになったが、個々の拠点の日常がどのようなものかについて詳細に検討されているとは言い難い。本研究では、ある拠点の14年にわたるスタッフの活動日誌の内容、特に人や形容詞の記載に注目して、テキストマイニングにより分析することで、拠点の日常を理解する手がかりを得ることを目的とする。

方法

NPO法人の子育て支援広場活動の2003年7月～2013年3月、2017年4月～2021年3月のスタッフ記載の活動日誌の「気づき」部分の記載内容を分析に用いた。段落ごとにテキスト形式にデータ化し、Text Mining Studioを用いて分析を行った。

結果と考察

1. 基本統計量：総行数は12,897、平均行長91.9(文字)、総文章数は43,220、延べ単語数は235,002。

2. 人に関する検討：頻度の高い人に関する名詞を確認するため、人を含むと考えられる名詞(一般、固有名詞、名詞人名。上位20位)を単語頻度解析で確認した結果、「ママ」「子」「利用者さん」「A先生(子どもの専門的知識を有するボランティア)」「Bさん(年配の男性ボランティア)」「パパ」が見られた。これらの言葉を含む文章が肯定的または否定的かを評価抽出で確認した結果、

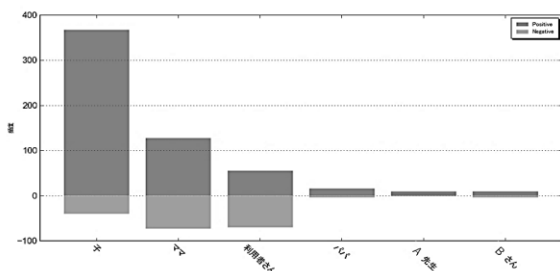


図1. 人に関する評判抽出

「子」「パパ」「A先生」「Bさん」を含む文章はポジティブな文章が多く、「ママ」や「利用者さん」を含む文章はネガティブな文章も記載されると考えられた(図1)。これらの人を表す言葉それぞれについて評価抽出の後、ネットワーク図を作成した。ネガティブな文章も多く見られた「ママ」では「大変」が(図2)、「利用者さん」では「少ない」が(図3)、ネガティブな単語の繋がりとして見られた。スタッフが母親の大変さに共感し、日誌に記載したり、利用者が少ないことが気になり記載したことも考えられる。また、これらの人

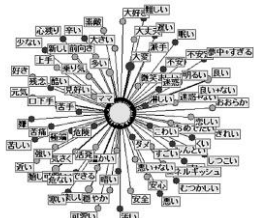


図2. ママの評判抽出後ネットワーク図

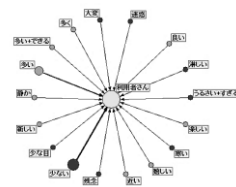


図3. 利用者さんの評判抽出後ネットワーク図

を含む文章について係り受け頻度解析で検討した結果、「ママ」「子ども」は来る、言う等と、「利用者さん」は少ない、多い、来る、いる等と、「A先生」は来る、遊ぶ等と、「Bさん」は作る、修理等と、「パパ」は来る、一緒に等と共に記載されていた。A先生の記載ではA先生が来ることへの肯定的な記載が多く、Bさんの記載では食べ物や拠点に必要な物を作って持参したり、様々な物を修理する様子が記載されており、ボランティアが拠点にとって重要な人物であることが推測された。

3. 形容詞に関する検討：単語頻度解析で形容詞上位5位を確認した。「良い」「楽しい」「多い」「嬉しい」「すごい」が抽出され、それらについて係り受け頻度解析を行った。「良い」は天気、話等、「楽しい」は子、話等、「多い」は人、子等、「嬉しい」はママ、子等、「すごい」はパワー、ほんと等と共に記載されていた。特に「楽しい」は子どもを含む文章が、「嬉しい」はママを含む文章が多いことが特徴であり、スタッフが子どもとは楽しさを、母親とは嬉しさを共有した可能性がある。(本研究は、山口大学 AI 研究デザインプロジェクト支援経費を受けて行われました。)